



ぶら研 「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室からぶらっと研修 6 6月17日 文責 田爪

目指すは完璧よりも「向上」、小さな進歩を大きく喜ぶ

通知表「あゆみ」を変えます。より、ポジティブ行動支援の立場を明確にします。

「指導が行き届いているという印象」

支援訪問 A、おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

「指導が行き届いているという印象」…午後の校長室での教育事務所からのまとめの中での言葉です。子どもたちを育てるための気配りが随所に見られたのだと思います。ありがとうございます。

最後の全体会「指導・講評」の中での、「ありがとうの連鎖」の話も非常にうれしかったです。

今回の訪問で指導や助言いただいたこと、励まされたこと、認められたことをポジティブに生かしながら、「子どもたちが論理的に説明できる主役となった授業」「一人一人が自分のよさを生かしながらよりよく生活できる教育活動」を目指し取り組んでいきたいです。

ペアでの話し合い・グループでの話し合い

～友達の意見を聞いて、友達の意見を代弁～

ペアやグループでの話し合いは、どういう目的で行いますか。

全体での話し合いでは、全員の発言が難しいので、ペアやグループで発言の機会を与えることは目的の一つとしてあります。

しかし、ペアやグループでの話し合いを全体での話し合いに生かすことができないというジレンマを感じる事が度々ありました。そのようなときは、このように考えることもできます。発言だけでなく「聴く」機会をもてるのも大きな意義があると。

わたしは、特に道徳の時間に「友達の意見を聞いての感想を発表させる」「友達の意見を代弁させる」といった方法をよくとっていました。

「わたしは A さんの意見を聞いて…としました。」

「わたしは…と思ったけど、A さんは…と思ったそうです。」

すると、すかさず、A さんに「もっと詳しく聞かせて」「なぜそう思ったの」と、A さんにも発言のチャンスが広がり、話し合いに広がり生まれます。

エレメンタリーバックストローク（背浮き）

プールでの学習が始まりました。日本は「顔を水につける伏し浮き」から教えますが、アメリカは背浮き「エレメンタリーバックストローク」から教えます。現在の学習指導要領から、高学年に安全確保につながる運動として「背浮き」が組み込まれています。普段の学習で扱う必要があります。背浮きは中学年でも、「もぐる・浮く運動」として示されています。そして、学習指導要領では、中学年において「面かぶりクロール」の表現がなくなっています。これは、一体何を意味するのでしょうか。